2020 年度

北陸 ESD 推進コンソーシアム

成果報告書

2021 年 2 月

北陸 ESD 推進コンソーシアム

目次

はじめに　・・・

はじめに

2020 年、コロナ禍により、世界は新たな課題に直面し、現在なお沈静化に向けて試行錯誤が続いている。これまで「あたりまえ」「常識」と考えていたことが出来なくなったり通用しなくなったり、またもしコロナが収まったとしても、全く同じ状況に「戻す」ことは現実的ではない…正解のない世の中へ一気に加速することとなった。但し、これは従前からこれからの世界を見据え、その対応が求められていたことである。我が国においても、2017 年から 2018 年にかけて行われた学習指導要領の改訂の際にはじめて加えられた前文において、以下のように述べられている。

「自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓（ひら）き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」　※下線筆者

今回のコロナ禍は、この「社会的な変化」を我々が想定していた以上に厳しい形で突如突きつけた。これに対して、我々はよろめきながらも力を合わせ、立ち向かいつつあるが、まだその力は十分であるとは言えない。この変化を科学的文化的に分析、思考し、必要に応じて、これまでの考えや価値と対峙し、必要に応じて更新、創造していく…またそのなかで、長期的により多くの人々、社会と価値を共有するため、その根拠や筋道を明らかにし、時にぶつかりあいながら、柔軟によりよいものとし続けていく、粘り強い取り組みが個と社会の双方に求められている。その基盤となる人づくりが、教育に改めて求められているのである。

私たち北陸 ESD 推進コンソーシアムでは、今年度、文部科学省ユネスコ活動費補助金を受け、今日のような状況下でもいつでもどこでも学ぶことが出来る「SDGs 達成に向けた e-learning 教材」を開発した。子どもたちが地域の課題とどのように向き合い、考え、学び、様々な立場の大人達と力を合わせてどのように取り組んでいるか、など、その取り組みのエッセンスを短時間かつ可視化された資料・映像を用いてわかりやすくまとめた教材である。今後各地域で実践に取り組む際の足掛かり、研修教材等として活用いただけることを期待している。あわせて、地球環境基金助成事業「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラムの開発」、北陸地域での SDGs、ESD に関わる取り組みの具体について私共の関わった一部をまとめたので是非参照いただきたい。

最後になりましたが、例年とは異なる慌ただしく困難な状況の中、実践報告・教材化に取り組んでくださった各学校、教育委員会の皆様、私たちの活動を支えアドバイスしてくださった文部科学省、環境省をはじめ諸機関の皆様、執筆、事務作業など実務を担当してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

北陸 ESD 推進コンソーシアム　事務局長　加藤隆弘

（金沢大学大学院教職実践研究科　准教授）

【成果報告１】主要会議等報告

○北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会の開催概要

主催：北陸 ESD 推進コンソーシアム

後援：ESD 活動支援センター、中部地方活動支援センター、

石川県ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会

日時：令和３年２月７日（日）１４：００～１５：３０

会場：オンライン開催

出席者　：北陸ＥＳＤ推進コンソーシアム会員及び関係者及び一般希望者

文部科学省国際統括官補佐、ESD-J、外部評価者、e-ラーニング教材制作協力校

北陸３県ＳＤＧｓ未来都市 10 都市の教育委員会　など　40 名

プログラム

開会挨拶

来賓挨拶　文部科学省国際統括官補佐　堀尾多香　様

（挨拶概要）

今年は特にコロナ禍で大変な時期であり、さまざまな制約があった中、持続性をいかに確保するのか、ESD が試された時期だったと思う。ESD と SDGs が混同されているという声も上がっているが、北陸 ESD 推進コンソーシアムではすでに一緒に掲げている。コロナや自然災害の中、デジタル教材のさまざまな発展がみられた。これからどうなるかわからない時代で、予測不可能なことが起こったときに課題をどうのりこえていくのかということが求められており、ESD の重要性が高くなっているように思う。国際的にも ESD for 2030 という新しい枠組みが始まり、国内においても新学習指導要領において、すべての学校で持続可能な社会の作り手を育成していくということが求められている。通常ならば赴くのが難しい場合でも今回のようにオンラインによって、参加でき、発表できることができた。難しいときでもメリットに目を向けて、よりよい教育活動社会活動ができていくように頑張っていきたいと思う。

＜成果報告１＞

１．ユネスコスクール活動報告（短縮した e-ラーニング教材動画あるいは直接報告）

・勝山市立村岡小学校「公立小学校における ESD の挑戦」

・金沢市立高岡中学校「コロナ禍における生徒会活動」

・金沢大学附属高等学校「シンガポール NJC との学習交流」

講評　三田村彰（福井大学連合教職大学院）

（村岡小学校）地域の課題を子供たちが楽しみを感じると同時に教員も一緒に学ぶという意識を開拓しないといけない。子供の学びを変えるために大人の学びを変えていかなければならないという、小学校の理念がある。北川先生の活動には様々な工夫が見られた。例えば、外部の人を学校にいれているが、一般的には外部の人とどういうふうにつながるか、ということが特に若い先生に難しいということ。北川先生は必ず若い先生を同伴しながら外部とどうつながっていくか等、自身の授業を使って若手を育てているのが良い。子供の学びを変えると同時に、子供は大人のミニチュアではなく社会のことをやっていけるのだという大きな意識改革につながっている。
（高岡中学校）PDCA の P がコロナ禍で崩れてしまった中で、計画が崩れたときこそ子供に任せ、立て直していく、という大人の意識が大事に思う。大人が計画し直したり、できるかできないかの判断を大人が決めてしまうのが一般的であるが、ESD の観点からみて子供に決めさせるというのが大事に思う。子供たちは、生徒会を話し合いの場としてちゃんと経験している。民主主義の根幹である話し合いを進める力が備わっているのを信じ、任せて、ルールを子供で作り、修正させ、目標に達成させる。この良さを PDCA で来年度どう引き継ぐかという話しあいがあったが、普通ワンサイクルで、1 年が終わるとスパンが終わってしまう為非常に大事な点だと思う。コロナ禍で先が不透明な中、この行事の目的がいったいどうなるのか、子供たちは話あうなかで単なるプランの修正に終わらずに、自分たちの活動の目的にまで踏み込んだ事実は、子供たちが思考を巡らせているのではないかと思う。これはスパイラルな学びを生んでいく。PDCA をワンループで回すだけでは発展性がみこめない。高岡中学校はワンループではなく、3 年生中心に 1 年間のロングスパンの学びを振り返って、（これは自然発生的におこっているのかもしれないが）、来年度の行事の目的まで制度は踏み込みながら話し合いをしている。スパイラルな学びが見え高く評価している。
（金沢大学附属高等学校）高校におけるひとつのモデルプランになると思う。1 年で地域の学習を深めるには多くの高校でも取り組んでいる。学び方を身につけながら、2 年生でグローバル化していく。グローバル化の中、シンガポールの学校と共同研究をしていくなかで、スパイラルな学びに繋げていこうという計画をしているのだと思う。高校で大事なのは個の学びが最終的には個の学びに戻っていくことが大事だと思う。大学、上級学校、就職と、彼らは日本の社会もしくは世界の社会の変革に繋げていくわけなので、個の学びにどう繋げていくのかが、高校の学びのテーマになる。そのときに中心になるのは教科指導である。それぞれの教科のなかで、探求的な学習がどう組まれていくか。金大附属は伝統的に教科のなかに高い学び、深い学びが組み込まれているという特色があるのと、先生がそれを共有化している。この 1.2 年の共同の学びに教員が参加しながら、このプロセスを追いかけ、生徒が個の学びを深める際には、教科担任として、またはクラス担任として学びに伴走していく力を持っている。そうして生徒は大学や様々なところに広がっていく。この学びを、金沢の場合、企業のファンディングをして、卒業生までもコミュニティとしてつなげていこうという作戦。高校の学習で終わりではない。高校で学んだことを大学、社会につなげていく、そのネットワーク化をはかっていこうというのが高校としてのモデル化の特色だとおもう。これは他の北陸の高校にも影響力をもつプランだと思う。

＜成果報告２＞

２．2020 年度地球環境基金助成金事業の報告

「北陸における SDG s 達成に向けた ESD プログラム開発」

３．2020 年度ユネスコ活動費補助金事業の報告

「北陸におけるＳＤＧｓ達成に向けた教員等の人材育成」

・北陸におけるＳＤＧｓ達成に向けた e-ラーニング教材の開発

完成した e-ラーニング教材の一部紹介及び制作協力校からのコメント

講評　成瀬喜則（富山大学大学院教職実践開発研究科）

今年度の e-ラーニング教材の作成に関わってきたが、すべての学校が特色のある実践をして、素晴らしい教材を作成されていると思う。先生方が ESD をどのように展開していけば良いのかを知るために、この教材は非常に重要な役割を担っている。多様性を尊重する力やコミュニケーション力、個々が成長しようする力、他と関わることで持続可能な社会に貢献する力を育てたいという気持ちが先生方にある一方で、教科の中でどう取り入れるのかがわからないということがある。今回の動画では参考になる要素が多く詰まっている。実践の目的も明確に提示されているので、動画を見ることで参考にしてもいただけるのではないかと思う。同時に、自分であればこのようにしようという気持ちにもさせてくれる。堀川小学校の場合は個の学習と集団過程を通して成長していくという点に焦点をあてた説明であった。また、富山大学附属小学校は、プログラミングを利用して SDGs を学習しようとしており、一つ一つが学習が意味のあるものになっていると思う。今後も、短時間で、明確な目的と成果、授業の流れがわかるような動画コンテンツが増えると良いと思う。

・ＳＤＧｓの達成という観点に立った北陸の教員養成

・本事業の外部評価

各外部評価委員から外部評価の概要をコメント（その概要は、成果報告２に記載）

中澤静男（奈良教育大学）　永井三岐子（国連大学 OUIK）　鈴木克典（ESDーJ）

４．質疑応答、意見交換

文部科学省国際統括官補佐（コメント）

改めて、SDGs、ESD の関係や、ESD やユネスコスクールに関して教員の方々の新たな負荷が加わるのではないかという懸念や、反発がある中で、村岡小の実践発表で「新たな負担ではなく再方向性付けをしていくものだ」という発言があった。ESD というのは各学校が元々やってきた学校教育と方向性が違うわけではない。持続可能な社会を見据えてやっていくということを実践されている学校から広めていただきたいし、今回のｅ－ラーニング教材をそう言った形で使っていただきたいと思う。広報に関して、ユネスコスクールのネットワークでｅ－ラーニング教材のリンクについてぜひ共有していただき、全国のユネスコスクールに共有してほしい。また文科省の方でも、教材のリンクを紹介することは可能。また余裕があれば英語版もぜひ作っていただけると世界の学校に日本の実践例として発信できると思う。

閉会挨拶

〇北陸ユネスコスクール交流会の開催概要

日時：12 月 13 日（日）13:00～15:00

場所：オンライン（金沢大学 Zoom システム使用）

主催：北陸 ESD コンソーシアム・石川県ユネスコ協会

後援：中部地方 ESD 活動支援センター・環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

出席者：27 名

目的:本年度本格実施の新学習指導要領にも SDGs の考えが取り入れられ、コロナ禍で各学校が孤立する傾向をもつ中、ユネスコスクール及びユネスコスクール候補校等間の SDGs・ESD 活動の情報、経験の相互交流を促進・深化させるとともに、引き続き北陸の学校間の交流を継続・強化することを目指す。

プログラム

開会

開会挨拶　北陸 ESD コンソーシアム事務局長　加藤隆弘

中部地方 ESD 活動支援センター　原　理史　氏(ESD・SDGs 責任者)

実践事例発表

（1）金沢市立兼六小学校　　田中 哲也　教諭

「地域の SD の課題を軸に SDG s ・ESD の価値に迫る！」

（2）富山市立堀川小学校　　宮前　壮章　教諭

「主体的に社会的事象の意味を考え、社会認識を深めていく子どもー社会科・総合的な学習の時間「富山型

デイサービス」の実践からー」

（3）富山大学人間発達科学部附属小学校　　鼎　　裕憲　教諭

「SDGｓを意識したプログラミング学習の実践～富山市の未来の公共交通を考えよう～」

（4）福井県勝山市教育委員会　教育総務課　　安居　幸恵　指導主事

「勝山市のESD」

質疑応答　協議・まとめ

助言者：⑴・⑷ 富山国際大学 准教授　　松山　友之 氏

⑵・⑶ 福井大学連合教職大学院 特任教授　三田村　彰　氏

参加者の感想より

開催内容については、今回は短時間でオンラインと言うこともあり、グループセッション等はなかったが、一つ一つの教育実践を共有した上で、質疑応答や意見交換ができて良かった。学校の実践にとどまらず教育委員会という行政の取り組みの報告もあり良かったのではないか。今後は、多様な校種、教科の実践や、地域のＳＤ課題への取り組み、企業やＮＰＯの取り組みなども報告されると良い。

〇北陸ESD推進連絡協議会の開催概要

令和２年度第１回北陸ESD推進連絡協議会

日時：令和２年10月26日（月）10：00～12：00

場所：オンライン（金沢大学Zoomシステム使用）

内容

1. 令和２年度石川県ユネスコ協会の取り組みについて

【北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラム開発】における４つの活動計画

1） 北陸地区におけるSDGｓガイドの開発・普及に向けガイドブックの作成

2） SDGｓモデル校の選定とSDGｓ達成に向けたESDプログラムの開発・実地

3） 北陸版SDGｓガイドやSDGｓ達成に向けたESDモデル事業の成果の普及セミナーの開催

4） プラットフォーム構築活動

2. 2020年度ESD推進コンソーシアムの事業について

・SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業（文科省：ユネスコ活動補助金）

＜教員育成＞

大学、高等専門学校等での授業における SDGs・ESD 教材を活用したカリキュラムの充実、教員免許状更新講習における SDGs・ESD 研修等

<e ラーニング教材（実践編）開発>

教材１：SDGs・ESD を推進するホールスクール・アプローチに向けたカリキュラム・マネジメント力の育成

教材２：学校と企業等を SDGs でつなぐ新しい職場体験活動にかかるカリキュラム・マネジメント力の育成

教材３：社会教育施設と連携した SDG s ・ESD に関わるプログラム等を有効に活用するカリキュラム・マネジメント力の育成

・外部評価について

3．ユネスコスクール、ESD に関わる取り組みについて。

令和２年度第２回北陸 ESD 推進連絡協議会

日時：令和３年１月 25 日（月）14：00～16：30

場所：オンライン（金沢大学 Zoom システム使用）

1. 北陸における令和 2 年度の ESD 推進活動について

・石川県ユネスコ協会の「北陸における SDGs 達成に向けた ESD プログラム開発」事業等の取り組み

・金沢大学の「SDG s 達成の担い手育成（ESD）推進事業」等の取り組み

2. 連絡協議会委員の各団体等の活動紹介

・富山ユネスコ協会　「地域ユネスコ協会として、子どもたち・教員・学校とどのような関わり方で支援に努めてきたのか」

・金沢星稜大学人間科学部　教授　清水和久　「テディベアプロジェクトと大学の支援」

・勝山市教育委員会教育総務課　指導主事　安居幸恵　「令和３年度　勝山市の取り組み」

3. 令和３年度事業方針についての要望

・石川県ユネスコ協会の地球環境基金助成金事業の方針

・金沢大学のユネスコ活動費補助金事業の方針

【成果報告２】実践報告・事業報告

○ユネスコスクール等の実践報告（e-ラーニング教材化された事例の校名等は後述）

今年度は、富山県２校、石川県５校、福井県２校と石川県の野外教育施設１施設が実践報告を行　った。内容的には、SDGｓを意識し地域のSDの課題や、未来の公共交通、海外との学習交流など多様性に富み、SDGｓを教科（理科、社会科）と結びつけるなど、授業の質を高める教育実践がでてきたことも特徴的であった。また、学校などを受け入れる野外教育施設の実践や、SDGｓに取り組む企業と連携したキャリア教育の実践も報告され、ステークホルダーと連携した実践も登場した。加えて、今年度は小学校５校、中学校３校、高等学校１校、野外教育施設１施設と校種等も幅広く報告があった。今年度は、コロナ禍にあり極めて難しい授業環境でありながら、北陸の各地においてSDGｓ達成に向けたESDの授業が営まれていたことは、ポストコロナにつながると感じた。

今後e-ラーニング教材化が期待された実践

「地方自治と私たち：その３　地方財政の仕組みと課題」中３社会科

―自主財源の比率を上げるためにも、勝山市にとって一番重要なSDGｓのターゲットは―

（福井県）勝山市立勝山南部中学校　伊豆蔵和貴　教諭

教科の授業が、SDGｓ、ESDによって「自分事ととして考える」可能性が出てくることを実感させられた。

○補助金や助成金を受けた事業の報告概要

【金沢大学：2020年度ユネスコ活動費補助金事業】

「北陸におけるSDGs達成に向けたｅラーニング教材開発を中心とする教員等の人材育成」

１．SDGs達成に向けたｅラーニング教材（実践編）の開発

（１）予備調査(訪問・ヒアリング)

調査対象 金沢市教育員会、金沢市企画調整課、富山市教育員会、富山市環境保全課

南砺市教育委員会、勝山市、エコプランふくい、福井大学

調査時期　５月～7月

働き方改革の進展とコロナウイルス禍の拡大と長期化の中で、学校現場が極めて厳しく困難な状況に置かれていることが理解できた。それ故に、校内研修などの開催も難しい状況であり、ＳＤＧｓ・ＥＳＤに関するｅラーニング教材（実践編）の必要性とニーズがあることを確認できた。また、SDGｓ・ESDがもたらす深くて対話的な学びが、学校の外の様々なステークホルダーとの交流やつながりによってもたらせていることからも、ポストコロナの各学校におけるカ

リキュラム・マネジメントにおいて、「開かれた教育課程」の視点が一層重要になると強く感じた。更に、学校教育の現場でようやく始まった、オンライン授業、リモート授業などが、ポストコロナの学校教育を大きく変える可能性を持つと予感する教員や、このコロナ禍から多くのことを学ぼうとする教員がいることも確認できた。

（２）SDGs・ESD 推進検討委員会の設置と検討

コンソーシアムメンバーを中心に設置し、オンラインでｅラーニング教材作成等の検討のため会合を開催した。

① 5 月 19 日（12 名）　オンライン（以下の会合は全てオンライン）〔今年度事業の概要・課題、事務局体制等〕

② 6 月 12 日（12 名）　〔年間計画、ｅラーニング教材制作プロセス等〕

③ 7 月 26 日（10 名）　〔ｅラーニング教材制作とガイドブック活用、ＳＤＧｓ・ＥＳＤの進展状況等〕

④ 8 月 25 日（12 名）　〔ｅラーニング教材制作依頼と仕様、県別分担等、大学や教委等への研修等実施状況調査等〕

⑤ 9 月 14 日（11 名）　〔制作依頼状況、完成ｅラーニング教材への評価コメント、兼六小の先行制作例の視聴等〕

⑥ 10 月 15 日（12 名）　〔勝山市と福井大学が連携した研修会、12 月の北陸ユネスコスクール交流会の開催等〕

⑦ 11 月 25 日（12 名）　〔勝山市での研修会報告、北陸ユネスコスクール交流会の開催内容等〕

⑧ 12 月 21 日（12 名）　〔交流会の総括、２月の事業報告会、本事業の外部評価等〕

⑨　1 月 21 日（12 名）　〔事業報告内容・内部評価、事業報告会・外部評価の持ち方、来年度事業企画案等〕

⑩　2 月　日（12 名）　〔外部評価結果、来年度事業企画案等〕

（３）今年度制作したＳＤＧｓ・ＥＳＤ ｅラーニング教材（実践編）（資料にプレゼン内容掲載）

SDGｓの達成に向けたｅラーニング教材（実践編：１５分前後）を、北陸３県の学校８校と野外教育施設１施設の協力を得て９本制作した。(学校名は前に記載したので省略)

教材①ＳＤＧｓ・ＥＳＤを推進するホールスクール・アプローチに向けたカリキュラム・マネジメント力の育成

・「地域のＳＤの課題を軸にＳＤＧｓ・ＥＳＤの価値に迫る」（石川県）金沢市立兼六小学校　田中哲也　教諭

・「コロナ禍だからこそつながる地域・台湾：きまっし！花園！プロジェクト」

（石川県）金沢市立花園小学校　浜田武司　教諭

・「コロナ禍における生徒会活動」　（石川県）金沢市立高岡中学校　野坂雄二　教諭

・「シンガポールＮＪＣとの学習交流」　（石川県）金沢大学附属高等学校　塚田章裕　主幹教諭

・「主体的に社会的事象の意味を考え、社会認識を深めていく子どもー社会科・総合的な学習の時間「富山型デイサービス」の実践からー」　（富山県）富山市立堀川小学校　宮前壮章　教諭

・「SDGｓを意識したプログラミング学習の実践～富山市の未来の公共交通を考えよう～」

（富山県）富山大学附属小学校　鼎　裕憲　教諭

・「公立小学校におけるＥＳＤの挑戦」　（福井県）勝山市立村岡小学校　北川喜樹　教頭

教材②　学校と企業をＳＤＧｓでつなぐ新しい職場体験活動にかかるカリキュラム・マネジメント力の育成

・「ＳＤＧｓを通してみる私たちの未来」職場体験ができない今年だからこそ

（石川県）金沢市立城南中学校　中村ゆかり　教諭

教材③　社会教育施設と連携したＳＤＧｓ・ＥＳＤに関わるプログラムを有効に活用するカリキュラム・マネジメント力の育成（1 本）

・「キゴ山　里山オリエンテーリングの開発」　（石川県）金沢市立キゴ山ふれあい研修センター　田上和則　主査

（４）ＳＤＧｓ・ＥＳＤe ラーニング教材（実践編）の制作プロセスと校内研修

①ＳＤＧｓ・ＥＳＤe ラーニング教材（実践編）の制作校及び制作協力者の公募（６、７月）

②制作校及び制作協力者の依頼（７月末）

③仕様書の通知及び学習会（８月）

④題材となる教育実践の参観及び指導・支援（９月～１２月）

⑤昨年度の実践に基づく e-ラーニング教材の制作を先行させ、サンプルとして共有（10 月）

⑥教材の基本となるスライド、読み上げ原稿、教材となる動画提出と校内研修及びアンケート依頼（１１月）

⑦1 月 25 日までに動画提出完了及び完成した e-ラーニング教材で協力校ごとに校内研修を実施し、研修参加者へのアンケート調査の提出完了（1 月）

（５）e-ラーニング教材を活用した校内研修の概要

e-ラーニング教材（実践編）を制作した各制作協力校では、完成した動画仕立ての教材を職員で視聴する校内研修が実施された。概ね、下記のような内容で行われた。

①校内の教職員でｅラーニング教材（実践編）を視聴　②質疑応答、意見交換　③アンケート記入

校内で密になることを避けるため、個人で視聴しアンケートに回答したり感想を報告するなどの手法も取られた。

（６）アンケートの集計概要（別添資料：アンケート用紙及びアンケート結果）

実施期間は、2020 年 12 月から 2021 年 2 月上旬であり、アンケート総数 55 名で、一旦集約した。回答者の多くが、これまでに SDGｓや ESD について学ぶ機会はあったと回答したが、20％ほどは学ぶ機会はなかったと回答した。視聴した e-ラーニング教材（実践編）は違いがあるが、全員が役に立ったと回答した。良い点、改善点に関する自由記述からは、「理論と実践がつながった」「SDGｓとの関係が理解できた」「評価や総合と教科の関係などが分かっ

た」などカリキュラム・マネジメントに関して理解が深まったことを示していた。また、e-ラーニング教材で必要な内容としては、教育実践、基礎知識、企業・民間団体・地域の実践の順であった。今後に必要なこととして、回答者の多くが「実践者が照会できる環境」「専門家と質疑応答できる環境」「最新情報の提供」を挙げていた。

（7）SDGs・ESD 推進検討委員会が果たした役割の特徴

富山県、石川県、福井県ごとに支援チームを定め、常時支援ができた。特に、勝山市立校に初めて福井大学が支援に入ることとなり、これからが期待できる。また、金沢市においては、金沢大学附属高等学校とシンガポールのＮＪＣ（ナショナル・ジュニア・カレッジ）との交流をアレンジし、金沢市立花園小と台湾の交流を支援することができたことは、ユネスコスクール等の交流の門戸を開く意味でも意義深い。また、今年度は完成したＳＤＧｓ・ＥＳＤe　ラーニング教材（実践編）への評価をすることとしている。教材化への評価とともに教育実践への評価も重視した。設置した SDGs・ESD 推進検討委員会のメンバーが評価し、その評価の一部を e-ラーニング教材の公開後、公開することとしている。(4 月に公開予定)

（8）e-ラーニング教材（実践編）制作協力校及び協力者への感謝状贈呈

e-ラーニング教材（実践編）制作協力校及び協力者に対して、北陸ＥＳＤ推進コンソーシアムから、その労を労い感謝状を贈った。

（9）開発したＳＤＧｓ・ＥＳＤを進めるｅラーニング教材（実践編）の全国的周知及び成果の発信

①北陸 ESD 推進コンソーシアムのウエッブサイトへの掲示及び加盟団体等への周知

②2020 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会を 2 月 7 日（日）に開催し、文部科学省や ESD 活動支援センター（全国・地方)、全国の ESD 活動拠点、ESD 学会、ESD-J、ACCU、大学や小中高等学校関係者に向けて発信

③開発した e-ラーニング教材 (実践編) の動画ディスク版 (DVD-R) を全国の ESD 活動支援センター (全国・地方)、ESD-J、ESD 学会、ACCU、SDG s 未来都市の教育委員会などへ送付した。

④ESD 活動支援センター（全国・地方)、ESD-J、ACCU 等のウエッブサイトを通して、制作した e-ラーニング教材（実践編）にアクセスできるようにした。

⑤ＳＤＧｓ・ＥＳＤe ラーニング教材（実践編）制作協力校を所管する教育委員会や校長会などの関連団体への周知

⑥北陸で展開する SDG 未来都市への周知及び来年度の教材募集案内を送付した。(首長部局と教育委員会)

富山県、富山市、南砺市、珠洲市、金沢市、白山市、能美市、小松市、加賀市、鯖江市

⑦令和 3 年度におけるＳＤＧｓ・ＥＳＤe ラーニング教材（実践編）制作協力者による各関連学会やフォーラム等での発表および報告の準備

⑧上記の関連団体等のホームページ等でのリンクの形成

(10) e ラーニング教材の手引き作成

YouTube に視聴用チャンネルを設けるとともに、制作した教材をより活用してもらうための手引きを作成し、北陸 ESD 推進コンソーシアム HP に掲載し周知・普及を図る。

2．SDGs の達成という観点に立った北陸の教員養成

今年度は、コロナ禍にあって対面する研修会の開催が難しい状況、授業時数の確保、教員の働き方改革などの影響で、教育委員会等と連携した大規模・中規模の研修会や校内研修会を開催することが、極めて難しい状況であった。そこで、リモートによる研修会や少人数での説明会、指導機会を頻繁に設定することとした。

（1）SDGs・ESD 研修の新しい工夫

コロナウイルス対策による集団研修機会の減少や外部者の学校内立ち入りの難しさ、働き方改革による教員の仕事増への懸念が強まる中、研修の個別化やリモート化を進めた。

①研修の個別化：e-ラーニング教材（実践編）の制作に協力いただく学校や先生方、教育委員会ごとに、教材化する方法や教材化する教育実践などについて、個別にミニ研修を行った。

②オンラインによる研修の開催：一学期が終了する 7 月末ごろからは、学校の方もオンラインでの授業や研修等を経験し、対応できる状態となり、夏季休業中からオンラインでの研修会を設定できる状態となった。

③主な研修（制作協力校や協力者との個別研修は除く）

〇SDG s の達成に向かう e-ラーニング教材制作協力者の研修会(8/20)

〇2020 年度　北陸ユネスコスクール交流会（12/13）

〇勝山市教委、福井大学、北陸 ESD 推進コンソーシアム合同授業研究会(11/19)

〇2020 年度　福井ユネスコスクール交流会（2/18）

〇SDGs・ESD 教員研修会（富山）（2/19）　e-ラーニング教材（実践編）を活用

〇その他小規模な研修会

コーディネーター等を派遣するなどして開催された研修会の開催回数。

・e-ラーニング教材関連研修　9 校　延べ 34 回　　・e-ラーニング教材関連以外　7 校　延べ 15 回

④授業実践への参観・参画

今年度はコロナ禍にあって、外部の者の学校訪問自体が難しい状況にあったが、e-ラーニング教材化する教育実践へ SDGs・ESD 推進検討委員会の委員が参観や参画する機会をつくれたことは、学校からも実践の質の向上に寄与した

と受け止めていただき、成果の一つとなった。

・キゴ山ふれあい研修センター（9月30日（水）、10月6日（火）、10月12日（月））

委員1名が植物学の専門家とともにフィールドを実踏し開発を支援した。また、暫定版のSDGｓを推進するプログラム「里山オリエンテーリング」について、小学校７校の協力を得て行った試行にも、北陸ESD推進コンソーシアムと国連大学OUIKが共に参観し、プログラムの可能性を確認し、改善箇所等についても協議できた。

・勝山市立村岡小学校（11月11日（水））

SDGｓ・ESD推進の一環として勝山市で盛んに行われているジオパーク学習（現地学習）に、SDGs・ESD推進検討委員会の委員等4名が参加し、児童と一緒に学習した。

・勝山市勝山南部中学校（11月19日（木））

SDGs・ESD推進検討委員会の委員及びコーディネーターなど8名が、SDGｓの視点による社会科の授業を参観し、その後の授業整理会の協議にも参画し全員がコメントした。

・金沢大学附属高等学校（11月27日（金））

シンガポールの高校であるNJC（ナショナル・ジュニア・カレッジ）との、オンラインによる学習交流の2回目の授業を委員など3名が参観し、意見交換する機会となった。

・金沢市立城南中学校（12月5日（土））

生徒が調べた企業のSDGｓの取り組みの発表や、金沢青年会議所のSDGｓ担当者による講義、オンライによる職場体験（農業法人）を委員1名が参観し、その後協議した。

・金沢市立花園小学校（12月16日（水））

コロナ禍において実施が難しい台湾との交流や、運動会などの実施について、児童と先生、地域住民が協同で取り組んできた教育実践の児童主催成果発表会に、北陸ESD推進コンソーシアムが国連大学OUIKと共に招待され、発表に対するコメントを述べてきた。

○北陸３県の大学や教育委員会などでの授業や研修会、セミナー等実施記録（一部）

今年度は、北陸ESD推進コンソーシアムの会員の内、ユネスコスクールを除く団体等を対象に、アンケート調査を行った。回答は17団体から寄せられた。

＜大学＞

金沢大学、富山大学、福井大学等において、例年通り一般教養や教員免許更新講習等で授業が実施された。

＜教育委員会＞

富山市教育委員会　1講座　25人　　南砺市教育委員会・エコビレッジ推進課　14講座　618人

石川県教育委員会　未実施　　金沢市教育委員会　4講座　107人

福井県教育委員会　1講座　230人

勝山市教育委員会　4講座　55人

＜その他＞

公益社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議　4講座　348人　1展示会　約8000人

公益社団法人大学コンソーシアム石川　1講座　18人　1講座（未実施）

＜寄せられた回答の今後の課題から＞

・知識だけでなく考え、実践する力をつけることが今後の課題　・体験を生かした効果的な活動、講習の進め方

・野外教育施設として、学校のカリキュラムとの関連を図る　・教員の働き改革の中で新たな研修を設けることが難しい　・研修は、市町教育委員会や各学校が、必要に応じて実施する流れとなってきており県として企画しずらい　・新型コロナウイルス感染症への対応が求められとともに、プログラミング教育や外国語の教科化などの課題もあり、持続可能な取り組みとするための工夫が必要　・各学校や協力団体による取り組みを効果的に活用するための方策が必要　・対面型での感染症対策とオンライン研修を取り入れる環境整備　・2030年の目標達成に向けたより積極的な取り組みへの転換の時期だと感じる

3．周知普及とフィードバック

2．の（9）で述べた周知普及とフィードバックと重なるが、コンソーシアムの活動で得られた成果を第一義的には、北陸内で共有するための場を例年通りオンラインで設け、成果物や活動の紹介やフィードバック情報を共有した。

○令和2年度第 1 回北陸 SDGｓ・ESD 推進連絡協議会

○令和2年度第 2 回北陸 SDGｓ・ESD 推進連絡協議会

○2020年度北陸ESD推進コンソーシアム成果報告会

○その他の活動

・ESD推進拠点である石川県ユネスコ協会と連携し、「SDGs・ESD実践ガイドブック」の活用に協力した。

・金沢ESDのメンバーとして、コーディネーターが参加し協力、連携している。

・ユネスコスクール候補校等への支援については、南砺市、氷見市、小松市、福井市で合わせて5件が支援を必要としているが、コロナ禍で具体的な進展は難しかった。しかし、今も連絡を取りながら支援を模索している。

４．本事業の外部評価

（１）外部評価導入の理由：

文部科学省からの補助金を活用する事業の質的向上を図るため、事業計画に外部評価の実施を明記した。

（２）評価対象事業

令和２年度ユネスコ活動費補助金：SDGs 達成の担い手育成(ESD)推進事業

（３）外部評価委員

中澤静男（奈良教育大学）　永井三岐子（国連大学 OUIK）　鈴木克徳（ESD-J）

（４）外部評価時期と方法（省略）

（５）外部評価の活用

２月７日の報告会における自己評価及び外部評価については、事業結果説明書及び次年度の企画書作成に反映させる予定である。

（６）外部評価の概要

北陸 ESD 推進コンソーシアムにおける取り組みにおいて特徴なのが、SDGs・ESD 推進検討委員が北陸地域で、大学の先生が連携しているというのが特徴的だと思う。奈良教育大学では近畿 ESD コンソーシアムというのをしているが、大学同士の連携がない。北陸では大学同士が連携して学校を支援している。２つの効果が考えられる。１つ目は、例えば金沢大学がある金沢だけというわけではなく３県に跨っているということ。２つ目は、今回の ｅ－ラーニング教材のように様々な学校の特色を生かす、多面的な切り口でアプローチをかけている点。１つの大学でこれら取り組むのは難しいが、推進委員の広がりというのが良いことだと思う。また、今年度は推進委員の方々が現場を知る機会があったということがあった。大学の教員は現場を知ることがなかなかないが、コロナ禍で、現場に足を運び、実行性があり、効果的な支援を可能にしたと思う。

SD という動きは１０年以上前からあって、北陸ESD も名前はあったということなのであるが、今回この１年半の活動を拝見して大きな達成があったと思う。その１つにプラットフォーム化がきちっと出来ていること。以前からあったのかもしれないが、活動の成果が見えつつあるなということ。また現場の活動がｅ－ラーニング教材という形で、地理的ハンデを超えてどなたでも共有できるようになったということ。花園、キゴ山の方を見に行ったが、コロナの影響があって PDCA が回せなくなったとことで、子供と大人が同じスター地点に立ったと思う。誰もやったことがないことを皆でやらないといけない状態になった時に、子供の力が発揮された。逆にそれが先生方や地域の方々の心を動かしたことが大きかったと思う。オンライン化が進んだ。珠洲市ではフィリピンの学校とオンラインでお互いの食文化をシリーズで交流している。花園と台湾。波乱万丈の１年だったが、大きな達成をしたというのが第一印象。来年度に関しては、ｅ －ラーニング教材のフィードバックを今後もらってどう使っていくかが課題。発信だけでは成果にはならないと思う。集まったメンバーで協力し、いろんなレイヤーがあると思う、教育委員会、企業、学校へ協力が上げられると思うが、どういったレイヤーでどう ESD や、子供が SDGs の中で役割を果たしていくのか。大人のあり方をどうしていくかということも含めてダイナミックに持っていくのかが、これからの大きな大きな流れなのかなと思う。国連大学として協力できればと考えているし、金沢市で言えば金沢市の SDGs を様々な団体と連携しながら IMAGINE KANAZAWA という活動をしている。そういった面から協力できればと考えている。

2014 年に発足した北陸ESD 推進コンソーシアムが、ここまで発展したことを喜んでいる。コロナ禍の中で、９本もの多様で個性ある e-ラーニング教材ができたことはとても良かった。コロナ禍での教育実践の取りまとめは大変だったと思う。ここに留まることなく、次のステップにどうつなげるか考えることが大切である。ここでの経験が、地域の課題とどう向き合い取り組むのかということにつながると思う。これからのステップアップに期待している。時間的制約の中で、教材についてのフィードバックを、これから使ってもらいたくさんもらうことが大切である。また、海外との交流に関する教材が ２本あったが、これからは、この様な海外との交流の実践事例が重要になってきている。大学などの支援を受けながら、交流が盛んになるとよいと思う。企業との連携や、キゴ山の取り組みは、面白いケースであった。この様に社会教育施設と連携した事例も必要である。動物園やファミリーパークなどの実践も教材化できるといい。そして、北陸 3 県体制の内、福井県での体制が強化されたこともよかった。次年度以降、国内外の SDG s ・ESD の動向、ロードマップや新しい実施計画、手引きの改定などに注目し、e-ラーニング教材基礎編の改定も重要である。ユネスコスクール以外の学校の理解を深めるためにも必要である。これらの実践や教材の全国展開や周知も大切である。SDG s と ESD の連携、北陸の SDG s 未来都市 10 都市との連携も大切にしてください。

5. 本事業の総括と展望

・コロナ禍にあってカリキュラム・マネジメントが危機的情況にありながら、SDGs 達成に向けた ESD の授業実践を支援できたことである。花園小や高岡中、城南中、金大附属高校、キゴ山ふれあい研修センターなどのように、学校が当初のカリキュラムを破棄し、教育計画を作り直し実施するというカリキュラム・マネジメント過程で、児童生徒の声や意見を取り入れたり、地域住民や協力団体の協力を強化したり、教育内容の再構成、オンライン授業の導入を進めたりと、ポストコロナにも生かせる新たな教育の創意工夫を進めることに寄与できたことである。また、村岡小や堀川小、富大附属小、兼六小などのように、地域の SD の課題に取り組む学習を教科においても重視し、カリキュラムとして持続しようとする努力を支援できたことも大きな成果であった。

・コロナ禍で開催時期が 8 月から 12 月へと遅れたが、長年続けてきた北陸ユネスコスクール交流会を開催し、北陸 3 県から 3 校の SDG s ・ESD の実践発表と勝山市教育委員会から教育行政の取り組み報告があり、交流及び共有ができたことである。また、2 月には各学校の教育実践と e-ラーニング教材（実践編）の制作を中心に成果報告会をオンライで開催するとともに、その中で昨年度までの課題であった外部評価を実施できたことは、大きな一歩であった。

・昨年度の SDG s ・ESD に関する e-ラーニング教材（基礎編）に続く、e-ラーニング教材（実践編）を 9 本制作し公開できたことは最も大きな成果であった。公募という過程を経て、北陸 3 県で小・中・高校の異なる校種と野外教育施設の 8 校 1 施設で作成し公開できたことは、来年度以降の展望を切り拓いた。本年度の e-ラーニング教材（実践編）制作事業における、カリキュラム・マネジメントの三つの枠組みで、質の高い教育実践をベースに制作できたことは、学校教育以外の教育分野での事業展開の可能性を高めた。

・この教材制作プロセスで各学校の管理職及び制作協力者である先生方と継続的に協議できたことは、OJT にも合致しており、人材育成における e-ラーニング教材制作プロセスが持つ手段としての有効性と重要性を示した。

・学校等が質の高い教育実践を行いながらも、その実践が SDG s の達成や ESD の視点から見て大きな価値を有していることの認識が弱いという面があるが、e-ラーニング教材の制作プロセスによって、SDG s や ESD について理解するだけでなく、自校や自身の教育実践が、SDG s や ESD の視点から見て価値を有していることを具体的に認識し、視点を広げていくことから、このプロセスは、人材育成において目的的にも有効であり重要であることを示した。

・身近な教育実践による e-ラーニング教材（実践編）を同僚に視聴してもらい意見交換するなど、自校での校内研修会の設定のし易さや、ユーチューブにアップロードした e-ラーニング教材（実践編）を視聴する個別の研修機会の設定のし易さなどは、教員の働き改革の中で利用しやすいことも明らかになった。このことは、この様な制作プロセスと完成後の活用プロセスを重視する e-ラーニング教材は、同僚や専門家などとつながり自己研鑽するための媒体となる可能

性も見せてくれた。

・近い将来のSDGｓ達成に向けESDの視点に立ったホールスクール・アプローチに向けて、具体的な実践事例をカリキュラム・マネジメントの観点で、管理職や中核教員によって教材化できたことは、学校現場のみならず教育行政、研究者にとっても参考となると考える。今後、多様な実践編が制作されことで、SDGｓ・ESDの学校現場での実践に即した基礎編の改定（マイナーチェンジ）につながると思われた。

・勝山市教育委員会と北陸ESD推進コンソーシアムとの連携によって、今年度から福井県のESD活動拠点となった勝山市と福井大学がSDGｓ・ESDの教育実践について、連携する体制ができたことも大きな成果であった。このことで、北陸３県の各県ごとの推進体制の確立に向けた大きな一歩となったと考えている。

展望

・e-ラーニング教材（実践編）については、更に多様な教育実践をベースにした教材を制作、発信する。その制作プロセスにおいて、北陸ESD推進コンソーシアムに登録している域内の学校や教師等が、教育実践やその報告、e-ラーニング教材制作等についての個別の質問や疑問に、専門性のあるコーディネーターや大学の教員、昨年度にe-ラーニング教材制作者などが答えることができたり、簡便な審査でＨＰ等に積極的にe-ラーニング教材（実践編）をアップロードできたりする双方向のプラットフォームづくりを進める。

・地域の多様なＳＤの課題についての取り組みを教材化するとともに、北陸地域内外、国内外の学校などとＳＤＧｓ達成に向けた教育実践を交流したり協働したりする取り組みを教材化することも進めたい。

・今年度及び来年度におけるe-ラーニング教材（実践編）の制作プロセス及び活用プロセスからの成果と課題から、より実践を促すe-ラーニング教材（基礎編）を改定する。

・e-ラーニング教材（実践編）では、将来教師を目指す大学生や大学院生などが教育現場を取材して、その教育実践を紹介するタイプの教材づくりを計画し、大学生等が町づくりや社会貢献活動等を行う組織と連携して試行する。

・外部への発信を強化するため、ホームページの刷新に合わせて、ＳＮＳ（フェイスブック）での発信の強化と、全国のESD活動拠点等とのリンクを進めたい。

・北陸におけるSDGｓ・ESDを進める教育実践や制作したe-ラーニング教材の公開と活用促進が重要である。そこで、北陸における教材制作協力校や先生方の発表機会の充実と共に、全国ベースでの発信や交流等に積極的に参加する。

・義務教育学校を中心とした教育実践及びe-ラーニング教材の作成であったが、幼児教育や社会教育、企業やNPOにおける社員教育など、幼児期、少年期、青年期、壮年期、老年期を視野に入れたＳＤＧｓを達成するためのＥＳＤとして、プログラム開発やe-ラーニング教材作成等を進める。

・北陸ESD推進コンソーシアムもまた、全国の同様な組織や大会に実践や成果を発信していく。

・北陸の10地域の未来都市との連携協力関係を構築する。

【石川県ユネスコ協会：2020年度地球環境基金助成金事業】

「北陸におけるSDGs達成に向けたESDプログラムの開発」

①北陸版 SDGsガイドの開発・普及（プロジェクトチーム）

→ 北陸版 SDGs ガイドの増刷・配布/ 改訂版の作成準備。フィードバックのためのSDGs学習会(11/29)開催。

→ 配布校等にフィードバックのためにアンケート調査中

→ 北陸全体として3 校以上の学校でSDGs･ESD研修を実施。

（勝山市立の小中学校、富山市教育委員会・富山市立堀川小学校・楡原小学校、金沢市教育委員会など）

②SDGs達成に向けた ESDプログラムの開発・普及（プロジェクトチーム、ユネスコ協会・ユネスコスクールと連携）

→ 富山市立堀川小学校、金沢市立花園小学校、勝山市立村岡小学校・南部中学校等でモデル授業

を実施し、プログラム開発、

③SDGs・ESD普及セミナー

石川：12月13日北陸ユネスコスクール交流会（WEB）

福井：11月19日勝山市立勝山南部中学校（対面公開研修会）

富山： 2月19日に教員向け研修会（ESD講座委員会WEB）

④北陸における SDGs・ESD推進のためのプラットフォーム構築

目的：北陸のSDGs・ESDに関する活動を共有し、協働活動を促進し、関係者の連携を強化し、地域ユネスコ活動のより広範な広報・普及を図るため。

9月末：大学・行政・NPO・民間ユネスコ協会等の主要なSDGs・ESD推進関係者からなる協議会を設置。 29名（大学・行政・NPO・民間ユネスコ協会等の関係者）を委嘱する。

10月26日 第1回北陸 ESD 推進連絡協議会（18名出席）

1月25日 第2回北陸 ESD 推進連絡協議会（18名出席）

⑤今年度の成果

コロナ禍により学校における授業が大幅に圧迫されているため、SDGs 達成に向けた授業を実践している北陸のユネスコスクール数が正確には把握できていない。しかし、（勝山南部中学校や北陸ユネスコスクール交流会などでの）SDGs・ESD普及セミナーによって、孤立傾向の学校が交流によって相互に刺激しあい、SDGs達成のためにESD

推進しようとする意気込みを得たようである。また、北陸の29団体が参加した北陸ESD推進連絡協議会が設置され、情報、経験を共有し連携すすることが出来た。

【日本ユネスコパートナーシップ事業について】

主にユネスコスクール加盟申請校や加盟校に対して、加盟申請及び加盟後の活動に掛かる指導助言、講義研修等を行った。今年度加盟申請に関わり、支援した学校は以下の4校である。

・富山県南砺市立上平小学校、平中学校　・石川県小松市立板津中学校　・福井県福井市仁愛女子高等学校(私立)

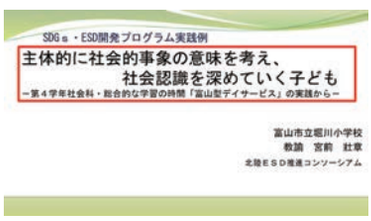
計上した予算(旅費)は、仁愛女子高等学校への訪問支援に充てる予定であったが、コロナ禍により、実際に訪問することができず、遠隔でのやりとりとなった。上平小学校、平中学校、板津中学校についてはそれぞれ委員が訪問し、研修や実践指導、申請書作成支援等を行うことができた。

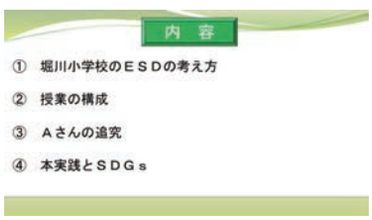
資料

・SDGｓ達成に向けたESD e-ラーニング教材（実践編）スライド

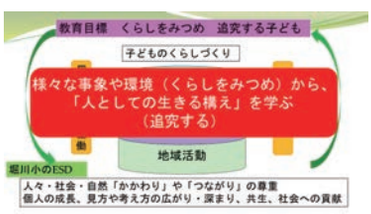
・「主体的に社会的事象の意味を考え、社会認識を深めていく子どもー社会科・総合的な学習の時間

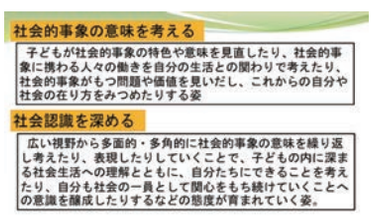
「富山型デイサービス」の実践からー」　（富山県）富山市立堀川小学校　　宮前　壮章　教諭



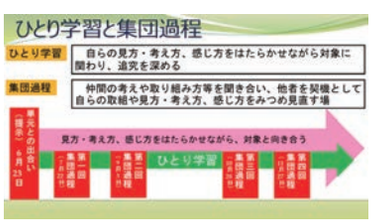


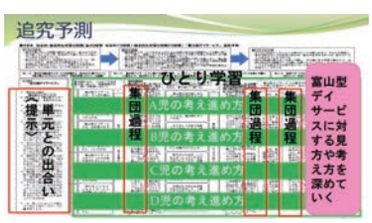


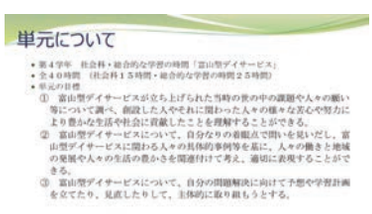


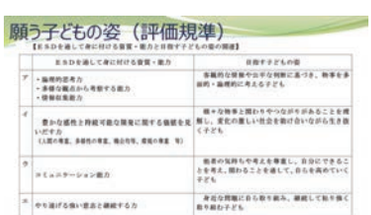


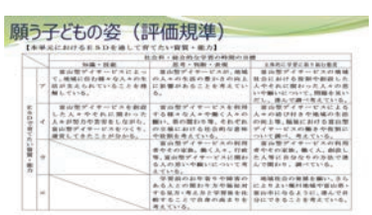


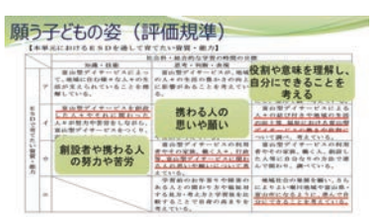




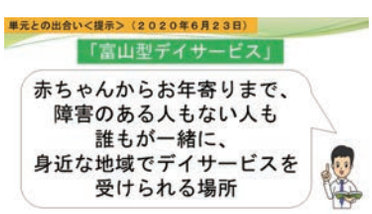


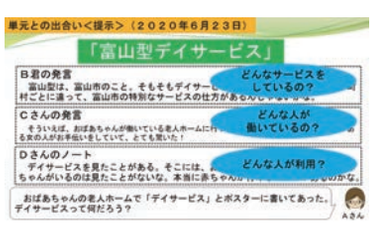


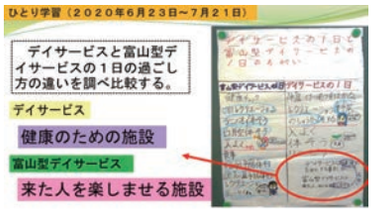


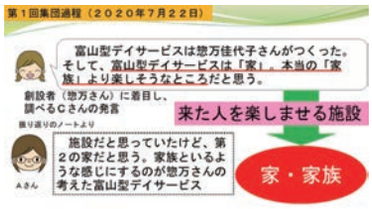


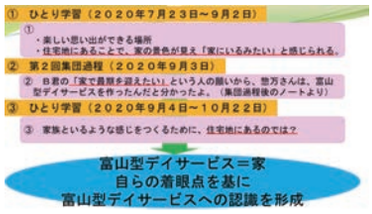




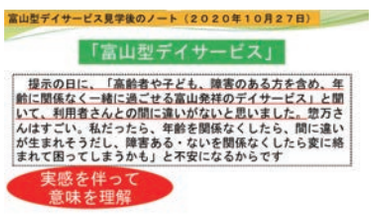


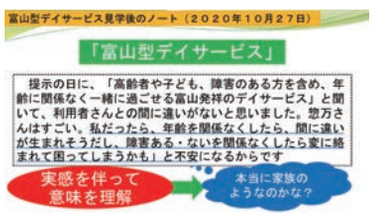

ひとり学習（２０２０年６月２３日～７月２１日）
デイサービスと富山型デイサービスの１日の過ごし方の違いを調べ比較する。
デイサービス
健康のための施設
富山型デイサービス
来た人を楽しませる施設

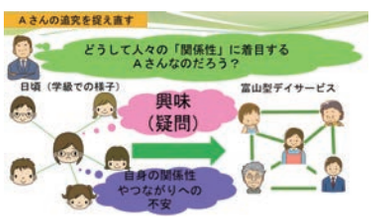

第１回集団過程（２０２０年７月２２日）
富山型デイサービスは惣万佳代子さんがつくった。そして、富山型デイサービスは「家」、本当の「家族」より楽しそうなところだと思う。
創設者（惣万さん）に着目し、調べるCさんの発言
来た人を楽しませる施設
振り返りのノートより
施設だと思っていたけど、第２の家だと思う。家族といるような感じにするのが惣万さんの考えた富山型デイサービス
Aさん
家・家族

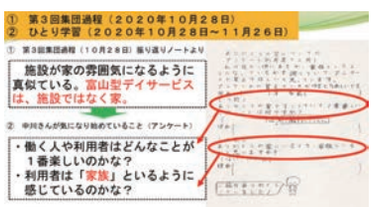

① ひとり学習（２０２０年７月２３日～９月２日）
①
・楽しい思い出ができる場所
・住宅地にあることで、家の景色が見え「家にいるみたい」と感じられる。
② 第２回集団過程（２０２０年９月３日）
② B君の「家で最期を迎えたい」という人の願いから、惣万さんは、富山型デイサービスを作ったんだと分かった。（集団過程後のノートより）
③ ひとり学習（２０２０年９月４日～１０月２２日）
③ 家族といるような感じをつくるために、住宅地にあるのでは？
富山型デイサービス＝家
自らの着眼点を基に
富山型デイサービスへの認識を形成


富山型デイサービス見学１回目（２０２０年１０月２３日）
見学後の振り返りノートより
私のイメージは普通の家だったけど、障害のある・ない、子ども、お年寄り関係なく誰でも行ける家というイメージに変わりました。
家＝施設（物理）
家＝つながり（内面）

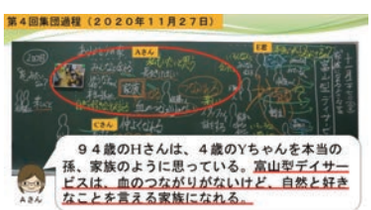

富山型デイサービス見学後のノート（２０２０年１０月２７日）
「富山型デイサービス」
提示の日に、「高齢者や子ども、障害のある方を含め、年齢に関係なく一緒に過ごせる富山発祥のデイサービス」と聞いて、利用者さんとの間に違いがないと思いました。惣万さんはすごい。私だったら、年齢を関係なくしたら、間に違いが生まれそうだし、障害ある・ないを関係なくしたら変に絡まれて困ってしまうかも」と不安になるからです
実感を伴って意味を理解

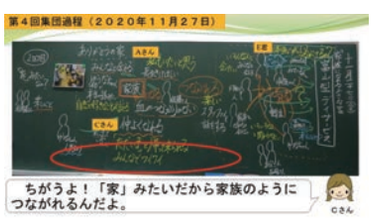

富山型デイサービス見学後のノート（２０２０年１０月２７日）
「富山型デイサービス」
提示の日に、「高齢者や子ども、障害のある方を含め、年齢に関係なく一緒に過ごせる富山発祥のデイサービス」と聞いて、利用者さんとの間に違いがないと思いました。惣万さんはすごい。私だったら、年齢を関係なくしたら、間に違いが生まれそうだし、障害ある・ないを関係なくしたら変に絡まれて困ってしまうかも」と不安になるからです
実感を伴って意味を理解
本当に家族のようなのかな？

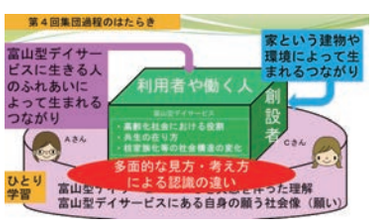

Aさんの追究を捉え直す
どうして人々の「関係性」に着目するAさんなのだろう？
日頃（学級での様子）
興味（疑問）
富山型デイサービス
自身の関係性やつながりへの不安

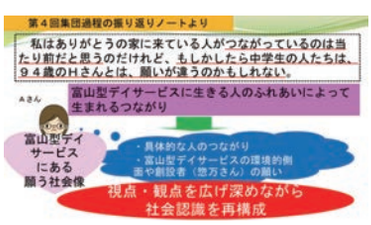

① 第３回集団過程（２０２０年１０月２８日）
② ひとり学習（２０２０年１０月２８日～１１月２６日）
① 第３回集団過程（１０月２８日）振り返りノートより
施設が家の雰囲気になるように真似ている。富山型デイサービスは、施設ではなく家。
② 中川さんが気になり始めていること（アンケート）
・働く人や利用者はどんなことが１番楽しいのかな？
・利用者は「家族」といるように感じているのかな？

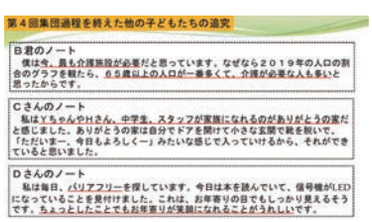

富山型デイサービス見学２回目（２０２０年１１月２０日）
みんなに会えることが一番楽しいよ。
家族といるように感じるよ。
（94歳Hさん）
人のつながり実感

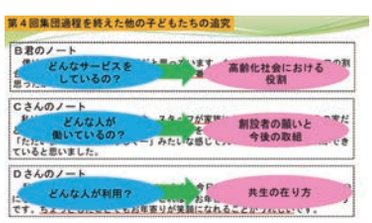

第４回集団過程（２０２０年１１月２７日）
９４歳のHさんは、４歳のYちゃんを本当の孫、家族のように思っている。富山型デイサービスは、血のつながりがないけど、自然と好きなことを言える家族になれる。


第４回集団過程（２０２０年１１月２７日）
ちがうよ！「家」みたいだから家族のようにつながれるんだよ。


第４回集団過程のはたらき
家という建物や環境によって生まれるつながり
富山型デイサービスに生きる人のふれあいによって生まれるつながり
利用者や働く人
創設者
多面的な見方・考え方による認識の違い
ひとり学習


第４回集団過程の振り返りノートより
私はありがとうの家に来ている人がつながっているのは当たり前だと思うのだけれど、もしかしたら中学生の人たちは、９４歳のHさんとは、願いが違うのかもしれない。
富山型デイサービスに生きる人のふれあいによって生まれるつながり
富山型デイサービスにある願う社会像
・具体的な人のつながり
・富山型デイサービスの環境的側面や創設者（惣万さん）の願い
視点・観点を広げ深めながら社会認識を再構成

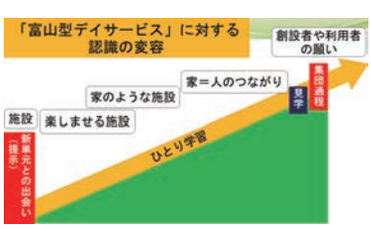

第４回集団過程を終えた他の子どもたちの追究
B君のノート
僕は今、最も介護施設が必要だと思っています。なぜなら２０１９年の人口の割合のグラフを観たら、６５歳以上の人口が一番多くて、介護が必要な人も多いと思ったからです。
Cさんのノート
私はYちゃんやHさん、中学生、スタッフが家族になれるのがありがとうの家だと感じました。ありがとうの家は自分でドアを開けて小さな玄関で靴を脱いで、「ただいまー、今日もよろしくー」みたいな感じで入っていけるから、それができていると思いました。
Dさんのノート
私は毎日、バリアフリーを探しています。今日は本を読んでいて、信号機がLEDになっていることを発付けました。これは、お年寄りの目でもしっかり見えるそうです。ちょっとしたことでもお年寄りが笑顔になることがうれしいです。


第４回集団過程を終えた他の子どもたちの追究
B君のノート
どんなサービスをしているの？
高齢化社会における役割
Cさんのノート
どんな人が働いているの？
創設者の願いと今後の取組
Dさんのノート
どんな人が利用？
共生の在り方

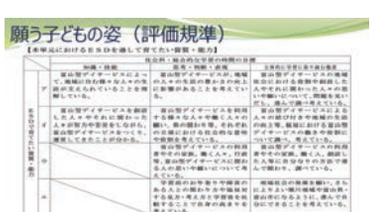

「富山型デイサービス」に対する認識の変容
施設
楽しませる施設
ひとり学習
集団過程
（単元との出合い（提示））

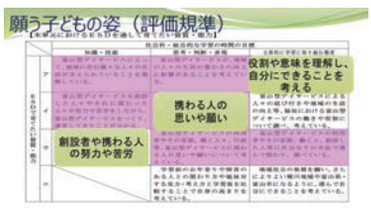

「富山型デイサービス」に対する認識の変容
家のような施設
施設
楽しませる施設
ひとり学習
集団過程
（単元との出合い（提示））


「富山型デイサービス」に対する認識の変容
家＝人のつながり
家のような施設
施設
楽しませる施設
見学
集団過程
ひとり学習
（単元との出合い（提示））


「富山型デイサービス」に対する認識の変容
創設者や利用者の願い
家＝人のつながり
家のような施設
施設
楽しませる施設
見学
集団過程
ひとり学習
（単元との出合い（提示））


「富山型デイサービス」に対する認識の変容
創設者や利用者の願い
家＝人のつながり
家のような施設
施設
楽しませる施設
見学
集団過程
ひとり学習
社会認識を再構成
目に見える世界→感じ取る(内面）世界
（単元との出合い（提示））


願う子どもの姿（評価規準）



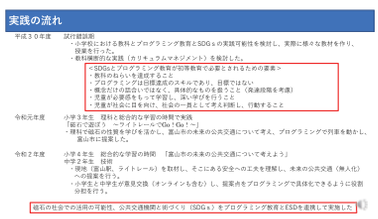


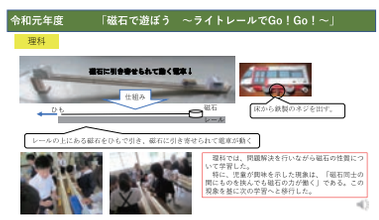


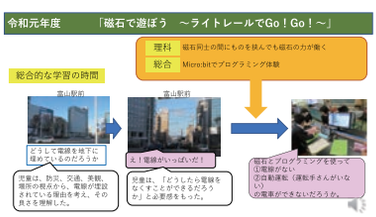
・「SDG s を意識したプログラミング学習の実践～富山市の未来の公共交通を考えよう～」

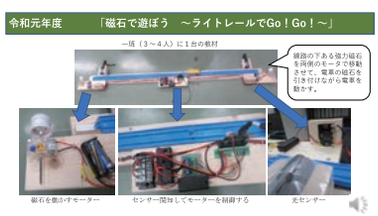
（富山県）富山大学附属小学校　　鼎　祐憲　教諭

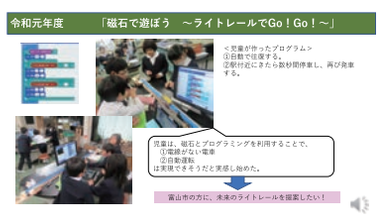


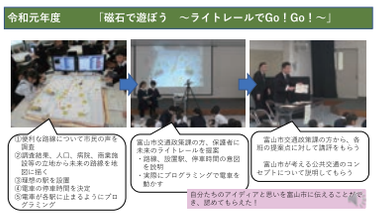








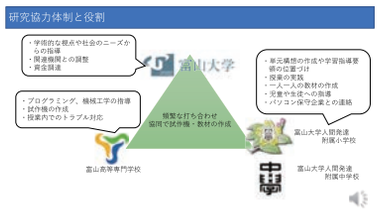


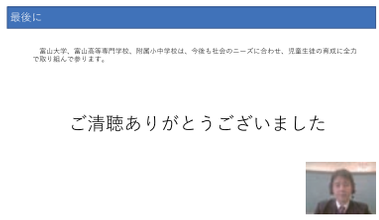






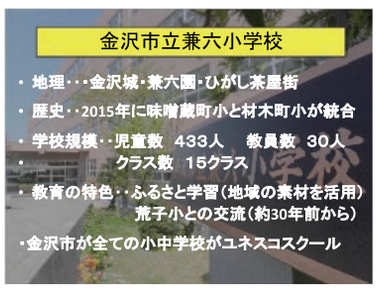


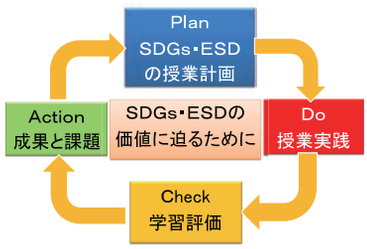


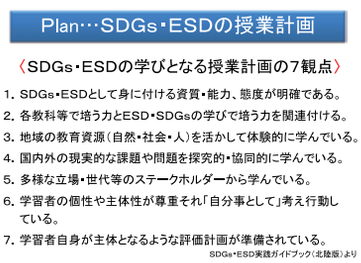


・「地域のＳＤの課題を軸にＳＤＧｓ・ＥＳＤの価値に迫る」
（石川県）金沢市立兼六小学校　　田中　哲也　教諭

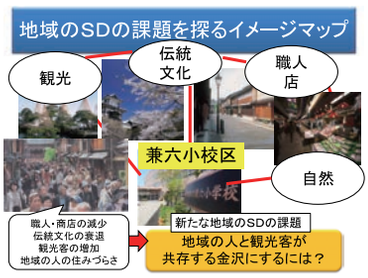


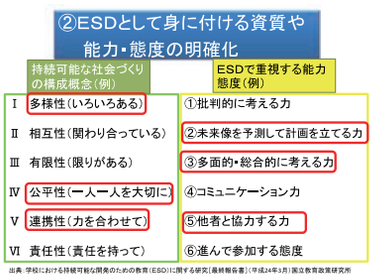






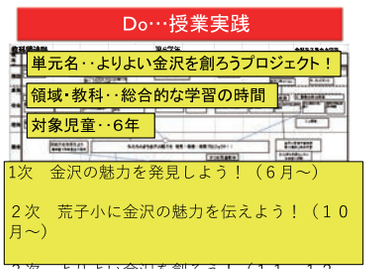


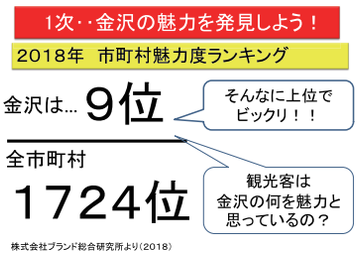


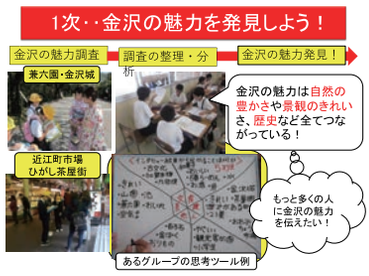




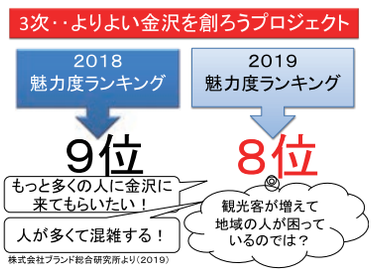


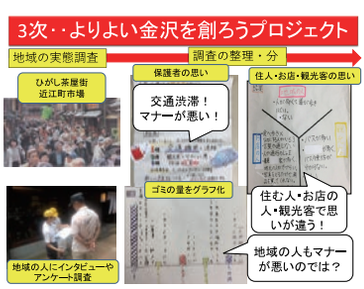


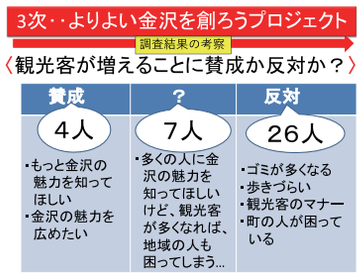


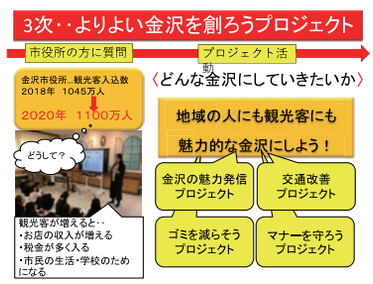


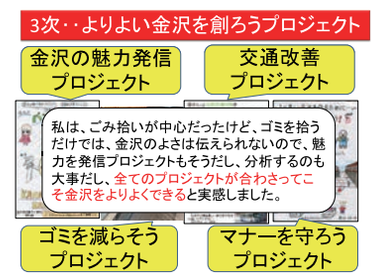


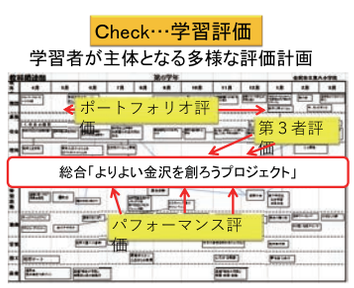


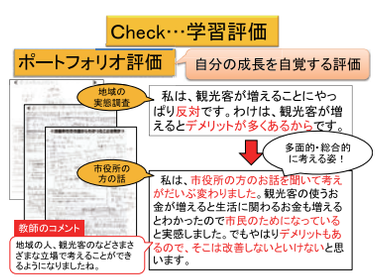


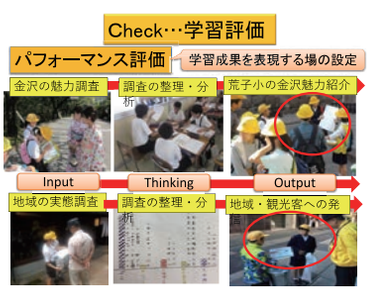


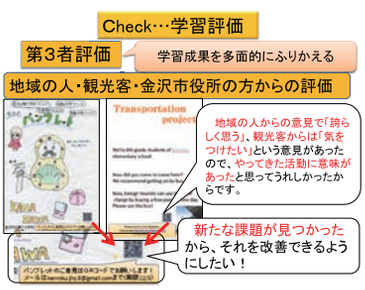


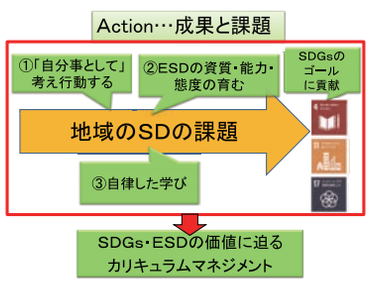


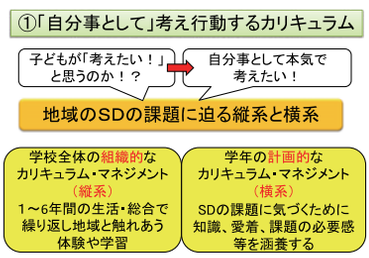




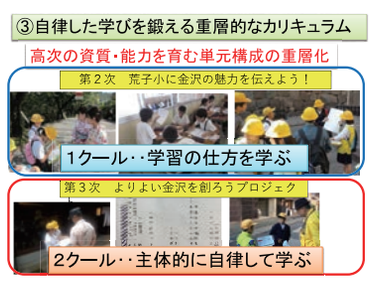














子どもの内面を見取る教師の評価力

・「コロナ禍だからこそつながる地域・台湾：きまっし！花園！プロジェクト」
（石川県）金沢市立花園小学校　　浜田　武司　教諭







プロローグ



花園小に届いたマスク。

学校は休業中。

子ども達は登校していない…

マスク贈呈式

贈呈者は、花園地区連合副会長の大島さ

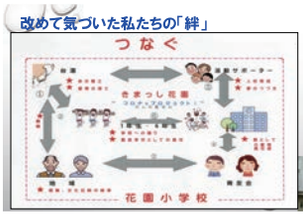


令和2年5月30日（土）北國新聞より

花園小、地域、台湾のつながり



改めて気づいた私たちの「絆」



花園小が置かれた状況

	実態	「きまっし！花園！」における強い
① 授業時数の確保 学力の保障	・主要4教科優先 ・週2回の7限日課	6年2学期 総合的な学習＋体育＋音楽 （21h）　（20h）（2h）
② 地域のリソース	連合町会長 育友会長 山口さん、柴田さん	地域の伝統民謡「花園めぐり」 地域の代表及び窓口 リモートの調整、ダンス指導
③ 台湾との交流	地域と連携し、毎年夏休みに直接交流 （JAPAN　TENT）	リモート交流

6年生による子ども企画部



話し合ったこと

①台湾からのマスクのお礼をどのように伝えたらよいか

②他に感謝を伝えたい人はいないか

③コロナ禍で感謝の気持ちをどう伝えるか



・友達と一緒に元気にがんばる姿を見せたい！
・毎朝夕、見守ってできる地域の方や保護者にも伝えたい！
・感染が拡大しないよう、行事を工夫して行いたい！

1. 企画名　：「コロナX」
2. 行事名　：「きまっし！花園！」
3. 日　時　：10月17日（土）午前
4. 場　所　：晴れ　本校体育館、運動場
　　雨　　本校体育館



「きまっし！花園！」

目標

○コロナ禍で人とのつながりが薄れてしまっている中でも、見守ってくれる家族や地域の方々、マスクを送ってくれた台湾の人達がいることに気づき、自分たちが頑張る姿を伝えようとする

○花園小・地域・台湾の3者が、リモートで交流することで、コロナ禍においてもつながりを感じることができる

総合的な学習の時間・体育科・音楽科のクロスカリキュラム「きまっし！花園！プロジェクト」

総合的な学習の時間の目標・評価	育成したい資質・能力・態度	ESDの枠組可能な社会づくりの構成要素	ESDで重視する能力・態度との関連	SDG'sの目標との関連
・自分たちの地域に関心をもち、地域や台湾とのつながりに気づく	課題設定能力	Ⅰ多様性	⑥つながりを尊重する	
・花園の地域の歴史や文化について調べ、集めた情報を整理分析し、自分たちの学校とのつながりについて、自分なりの考えを持つことができる	課題解決能力 情報活用能力	Ⅱ相互性	②未来像を予測して計画を立てる力 ④コミュニケーションを行う力	
・花園の地域と台湾と自分たちの学校とのつながりを理解し、自分たちの思いを伝えるため、真剣に取り組むことができる	主体的創造的態度	Ⅴ連帯性	⑥つながりを尊重する力 ⑤他者と協力する力	

動き出した企画



デザイン班（ポスター・ロゴマーク制作）
音楽班（テーマソング・BGM制作）
競技班（競技の計画）
動画編集班（地域民謡の動画制作）
若い力班（「若い力」指導者）
交流及びリモート担当（大人企画部）

デザイン班①（ポスター製作）

パソコンで作成したポスタ



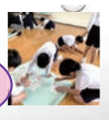


育友会長　花木さん

デザイン班②（ロゴマーク作成）



全児童に募集
↓
オーディション





デジタル化



音楽班（テーマソング作成）









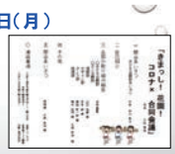
競技班　：ミニ運動会の団体競技の計画

動画編集班　：「花園めぐり」記録動画の編集

若い力班　：高学年の団体演技「若い力」の指導

合同会議　10月12日（月）





大人企画部
子ども企画部

当日に向け、互いに準備してきたことの確

活動の流れ

		活動内容	組　織
事前	①	目標・カリキュラム化	校長・6年担任
	②	企画部（子ども・大人） 総合的な学習・体育・音楽	6年（28名全員） 大人（7名）
	③	ミニ運動会の企画・練習	6年　体育
当日	④	花園ロード掲示物作成 総合的な学習	1・2年　校章・ロゴマークを描いた旗作り 3・4年　コロナに負けない決意 5年　「きまっし！花園！」ポスター 「きまっし！花園！」「スローガン」 6年　ロゴマーク（募集作品全て）
	⑤	図工室に展示	地域の方々：獅子頭、歌舞伎の役者の写真や絵
	⑥	「花園めぐり」の披露 台湾との交流	地域・6年
事後	⑦	実践報告	被報告者：国連大学（評価者） 5年生（次年度に向けて）

運動会的要素
文化祭的要素

「運動会」と「文化祭」2つの要素の融合



プログラム



団体演技



1・2年生



3・4年生

地域の方による「花園めぐり」





地域の方による花園めぐりの披露
6年生以外は、配信された映像を各教室で視聴

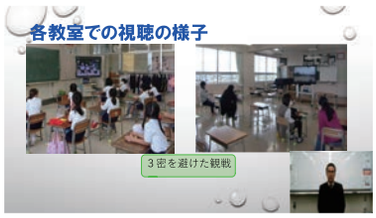
台湾との交流





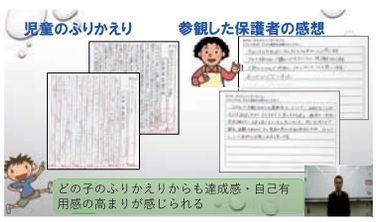
連絡調整をしてきた大島さんと
南台湾和風会の皆さん

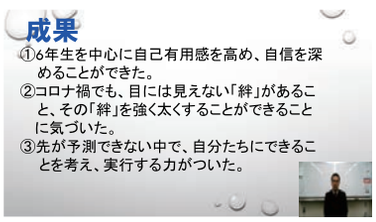


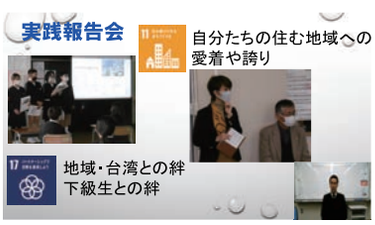






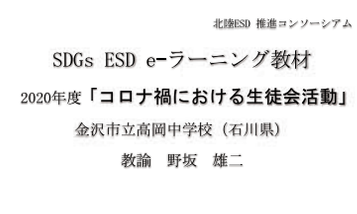


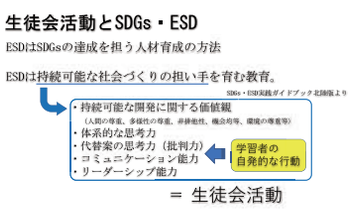


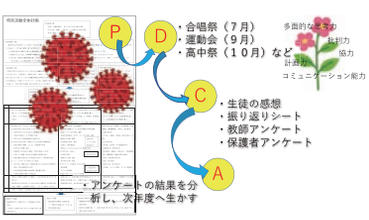


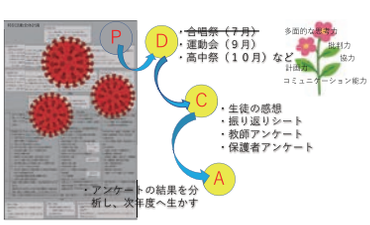


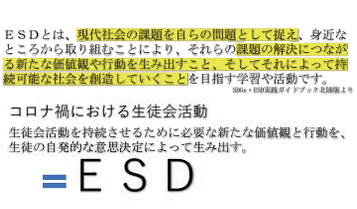
・「コロナ禍における生徒会活動」
（石川県）金沢市立高岡中学校　　野坂　雄二　教諭

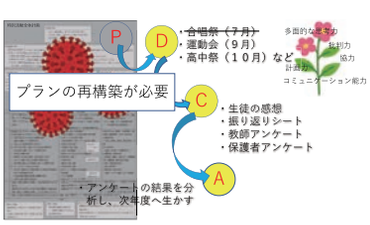


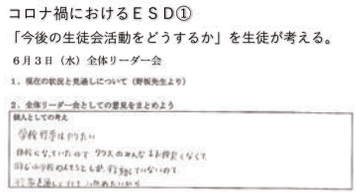


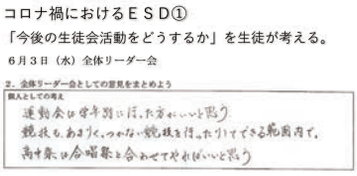


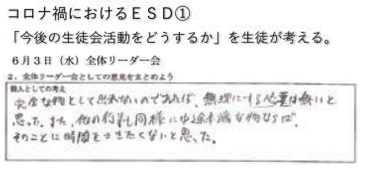












コロナ禍におけるＥＳＤ①

「今後の生徒会活動をどうするか」を生徒が考える。

６月３日（水）全体リーダー会

２．全体リーダー会としての意見をまとめよう

個人としての考え

私は 来年があるので しない方が良いと思うけど、

3年生は今年が最後で 無理にしないうが良いとは言えないが

3年生の意見を尊重して、3年生がしたいと言えば 3つし、

しないかぎり どちらでもしない方が良いと思う。

コロナ禍におけるＥＳＤ①

「今後の学校行事をどうするか」を生徒が考える。

・学校行事をやりたい。
・入学してからすぐ休校になり友達を作る機会がなかったからやりたい。
・３年生にとっては最後の年だから縮小してでもやりたい。
・受験勉強を優先すべき。
・感染リスクが少なくできるなら開催したい。
・やらない方が良いと思うが、３年生がやりたいと言うならやれば良いと思う。

コロナ禍におけるＥＳＤ①

「今後の学校行事をどうするか」を生徒が考える。

結論：運動会は縮小開催する。
秋の高中祭で合唱と劇を発表する。

➡ 生徒が出した結論を職員会議で提案し、運動会を開催することに。

コロナ禍におけるＥＳＤ①

「今後の学校行事をどうするか」を生徒が考える。



横断幕と生徒会だよりで開催を通知



コロナ禍におけるＥＳＤ②

「運動会をどう運営するか」を生徒が考える。



全体リーダー会で感染症対策について話し合う様子

コロナ禍におけるＥＳＤ②

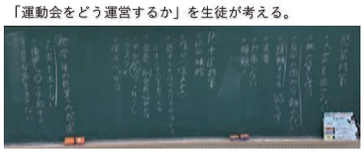
「運動会をどう運営するか」を生徒が考える。



全体リーダー会で感染症対策について話し合う様子

コロナ禍におけるＥＳＤ②

「運動会をどう運営するか」を生徒が考える。



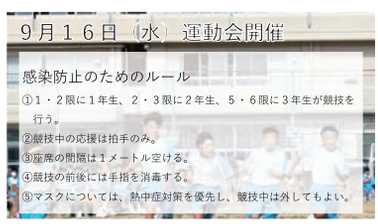
感染症対策と熱中症対策の両立が争点に…

コロナ禍におけるＥＳＤ②

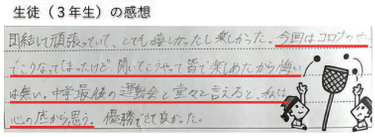
「運動会をどう運営するか」を生徒が考える。



養護教諭からもアドバイスをもらう



生徒（３年生）の感想



コロナ禍におけるＥＳＤ③

高中祭（文化祭）の開催





例年は午前中に体育館で舞台発表、午後からは出店活動

→ 開催は困難…。

コロナ禍におけるＥＳＤ③

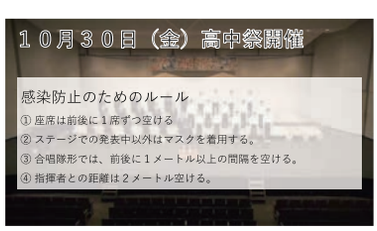
歌劇座で高中祭開催！



劇の練習もマスクをつけて行う



指揮者は廊下に出て練習

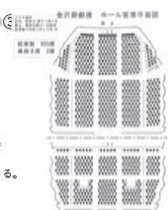


コロナ禍におけるＥＳＤ③

歌劇座で高中祭開催！



・１席ずつ間隔を空けて座っても全校生徒・職員が着席できる。
・前方の席を開けて、合唱もできる。
・劇もできる。



次年度に向けて

１１月２６日（木）全体リーダー会より

・個人の考え

一学期に運動会をして、二学期に合唱祭をする。

感染症対策と熱中症対策が両立しないため

→ ３年生が部活動を引退していないため、応援合戦の準備ができない

・全体リーダー会としての考え

運動会
二学期 応援なし
待機中はマスク
今年(3)

高中祭
今年(3)
全合唱祭
運動場で歌劇座

終わりに

・どんな困難な状況にあっても、自分たちの生活を充実させ、達成感のあるものにすること
・実行にあたって、必要なルールを考えること

➡ ＥＳＤ



・「シンガポールＮＪＣとの学習交流」
（石川県）金沢大学附属高等学校　　塚田　章裕　主幹教諭

北陸ＥＳＤ推進コンソーシアム

SDGｓ ESD e-ラーニング教材

2020年度「シンガポールＮＪＣとの学習交流」

金沢大学附属高等学校（石川県）
主幹教諭・研究企画部主任　塚田 章裕

金沢大学附属高校とは

- 正式名称は「金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校」
- １学年３クラスの小規模校
- 自由な校風、生徒の自主性を尊重
- 「総合的な探究の時間」に力を入れている
- 2019年度より、文部科学省ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業拠点校に指定
（全国で10校　　管理機関：金沢大学）

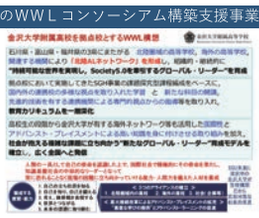
ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業とは



本校のＷＷＬコンソーシアム構築支援事業とは



本校のＷＷＬコンソーシアム構築支援事業とは



本校の総合的な探究の時間(現2年生)

1年次：「地域課題研究」（グループ研究）
【地域活性化プロジェクト】
地域の課題を発見し、解決策を探る
→実社会に提案
地域に密着した「実践」を重視

本校の総合的な探究の時間(現2年生)

2年次：「グローバル課題研究」（個人研究）
地域課題研究の研究手法を活かし、グローバル課題(SDGs)を基にゼミテーマ・個人テーマを設定し、研究活動を行う。
特に、ＳＤＧｓ１１【Sustainable Cities & Communities】についてテーマを設定する。

本校の総合的な探究の時間(現2年生)

1年次：「地域課題研究」
【Act Locally】

2年次：「グローバル課題研究」
【Think Globally, Act Locally】

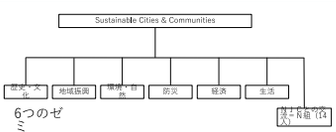
⇒ＥＳＤの精神と合致

NJCとの交流

ＮＪＣとは
シンガポール National Junior College

交流に関わる生徒を、2年生の中から20名程度希望者から選抜

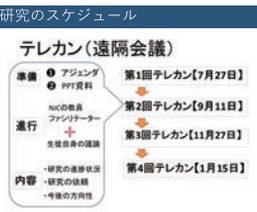
２年次の総合的な探究の時間における位置づけ



ＮＪＣとの交流＝協働研究



協働研究のスケジュール



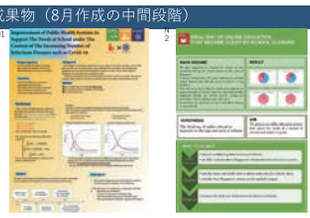
新型コロナウィルス流行に伴う変更



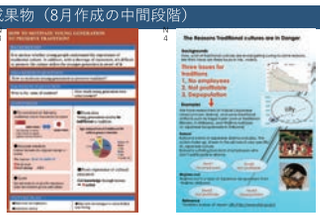
テレカンの様子



成果物（8月作成の中間段階）



成果物（8月作成の中間段階）



交流の意義

1. 英語で伝えることができない悔しさを体験
2. 視野の広がり
3. 研究内容の深まり

今後の展望

2021年3月13日（土）
金沢大学・本校主催の探究発表会で、両校が研究内容を発表

課題

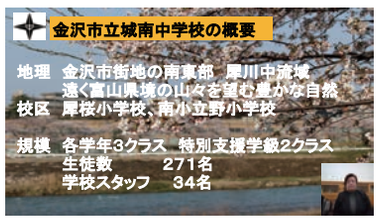
1．やりとりの難しさ
◎英語の問題（特に日本の教員）
→（ＷＷＬ）カリキュラムアドバイザーの存在は大きい
◎文化の違いを痛感
学年暦が異なる
教員の労働環境も異なる
2．両校で一つの研究としてまとめるのは難しい

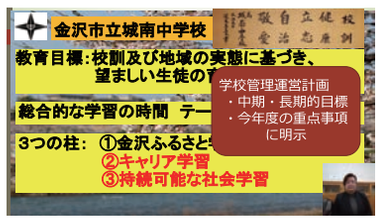
ご清聴ありがとうございました。

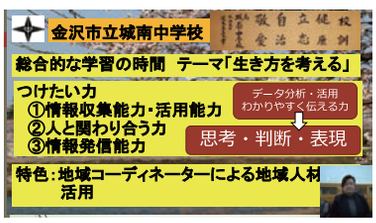
本校のＨＰにも生徒の活動が掲載されているので、ぜひご覧になってください。

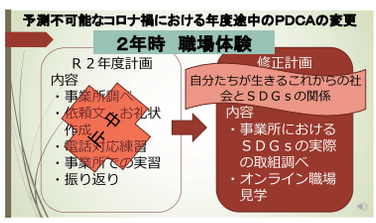
・「ＳＤＧｓを通してみる私たちの未来」職場体験ができない今年だからこそ
（石川県）金沢市立城南中学校　　中村　ゆかり　教諭

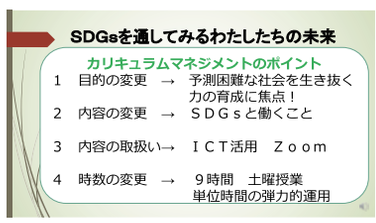


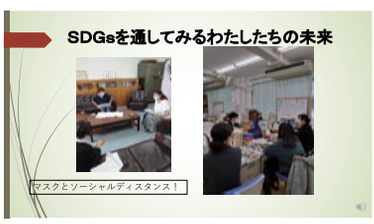


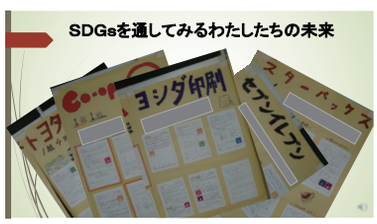


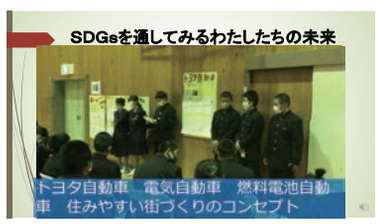






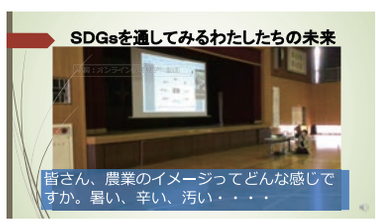






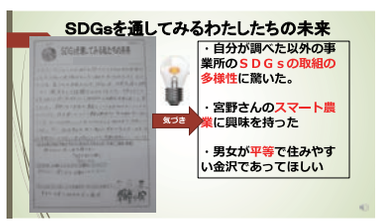


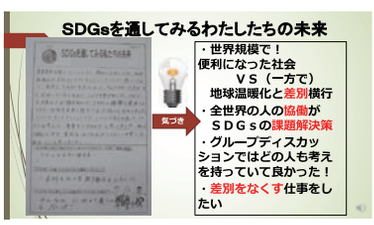


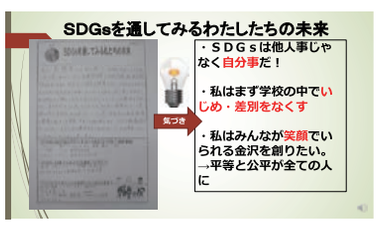


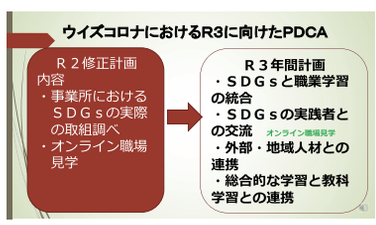








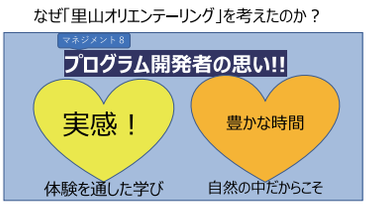




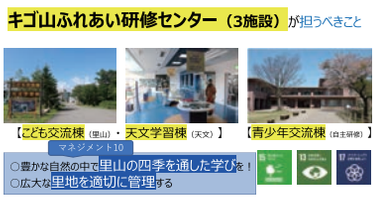


・「キゴ山　里山オリエンテーリングの開発」
（石川県）金沢市立キゴ山ふれあい研修センター　　田上　和則　主査

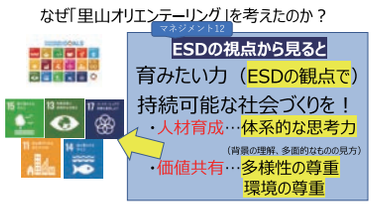


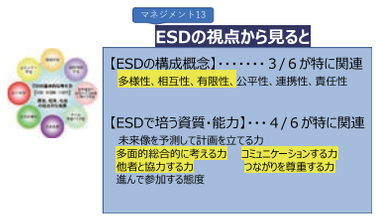


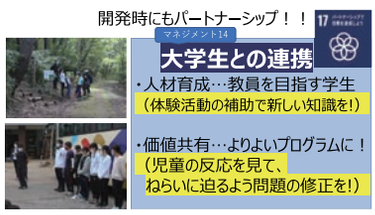


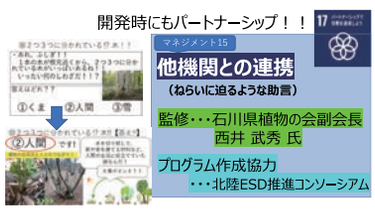


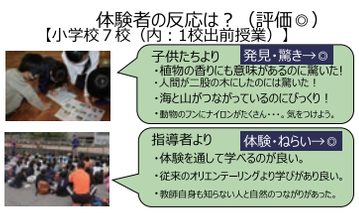


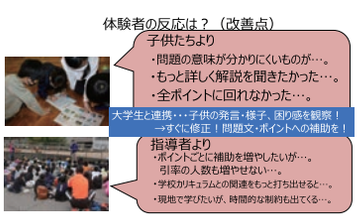


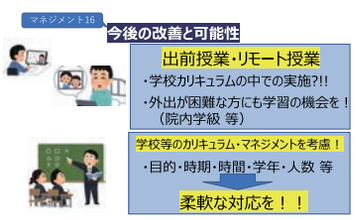


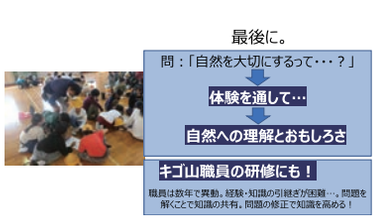












・「公立小学校におけるＥＳＤの挑戦」
（福井県）勝山市立村岡小学校　　北川　喜樹　教頭



公立小学校におけるESDの挑戦

勝山市立村岡小学校（福井県）

教頭　北川　喜樹

（1）なぜ勝山市の公立学校でESDなのか？



【理由１】以前から環境学習・ふるさと学習が盛ん

・どの学校にも、身近に豊かな自然教材がある
→全小中学校が地域に根差した環境学習に取り組んできた

・どの学校も、地域との結びつきが強かった
→地域文化や特色を教材にした学習など

【理由２】市教委・各学校の共通した願い

・超高齢化、急速な人口減少など、自治体としての持続可能性が本当に危うい。

・ふるさとに愛着を持ち、誇りに思う気持ちが児童生徒に育たなければ、地方創生などあり得ない。

・勝山にこだわらず、どんどん世界に出ていけばいい。ただ、どこで生きようと、自分のふるさとを語れる人であってほしい。

市をあげてESDに取り組むために

全小・中学校12校がユネスコスクールに加盟

（平成24年度に申請、26年度に承認）

◆どこへ異動しても、そこはユネスコスクール
◆新しく来た先生も、前任校でESDに関わりあり

勝山ESD自体の持続可能性が高まる！

学校は、何から取り組めばいいのか？

①全教育活動を、持続可能性の視点で見なおす
→新たな付加ではない！再方向付け！

②やれるところからやる
→楽しそうなこと、やってみたいことから

③必要感や必然性のあるところに手をつける
→先生の課題意識、子供たちの課題意識

でも、当初は「難しさ」も
たくさん、ありました・・・

「ESDが、なかなか浸透しない(T_T)」

【取組当初、よく聞かれた先生方の声】

・そもそもESDって何なの？
・ESDに取り組んで何の役に立つの？
・そう言われても、何をどうすればいい？
・ESDは一部のマニアな先生、好きな人のものでしょ？
・熱心な先生が異動すると、どうせ途絶える。
・また余計なもの学校現場に持ち込みやがって！

現在では・・・実践の方向性を校内で共有

・それをする必然性、自分事感を中心に
「子供は既に地域社会を担う存在」「変革は自分から」

・学校の課題、地域の課題を捉えなおす
「教室内で完結しない」「多様なつながりこそ大切」

・社会貢献は小学生にもできる
「大人になるまで待たなくていい」

（2）管理職としてのマネジメント



米づくり体験

◆外部機関との連携支援
「この団体・部署に電話すると、力を貸してくれるよ」
→管理職自身が外部とのつながりを強く持っておく

◆予算獲得
「バス代なら心配いらないよ」「画用紙は自由に使ってね」
→使えそうな補助金等はできるだけ確保しておく

◆語り合うサイクルの定着
「気軽に語り合おう」「おとなりに何でもきいてみよう」
→小グループでの対話機会を校内に増やす

◆止めない、口出ししない、仕切らない
「おもしろそう、やってみたら」「先生、好きなようにやって」
→管理職はプレイヤーではない



（3）ホールスクールアプローチのために



自分たちに
何ができるか
とことん話し合う

学校でのESD浸透具合を眺めてみましょう



村岡小のESD6ステップ

気軽に対話する機会を増やしましょう



放課後の職員室で…

授業研究会で…





（4）本校ESDの取組事例



福井県内で唯一
本校校区に自生
ミチノクフクジュソウ









児童の意識に、変化が見えはじめています

No.	質問内容	肯定的な回答（%） 平成30年12月	令和2年12月
1	あなたは、あなたの住んでいる地域が好きですか。	91.5	96.7
2	あなたは、あなたの住んでいる地域に誇りに思えるものがあると思いますか。	94.5	96.0
3	あなたは、あなたの住んでいる地域に役立つようなことをしたいと思いますか。	88.1	89.5
4	あなたは、あなたの参加で、今住んでいる地域をより住みやすいように変えることができると思いますか。	59.7	71.8
5	あなたは、あなたの住んでいる地域の行事などに、積極的に参加しようと思いますか。	90.5	96.7
6	あなたは、将来もずっと今の地域に住んでいたいと思いますか。	73.1	85.5

（4）むすびに

①管理職ができる最高のマネジメントとは・・・
→いつも目じりを下げて、オープンマインドで！

②「ESDやSDGsをしなくちゃいけない」などと
先生方が自分を追い込む必要は一切なし！
→今日より少しでもいい明日にしたい気持ちと、
相手を気遣う気持ちさえあれば大丈夫

③授業で何をするか、何を教えるかではない。
→「私たち大人がどうあるか」がESDであり、
SDGsの達成を決める。



・e-ラーニング教材（実践編）視聴後アンケート用紙

SDGs・ESDを進める人材育成
e-ラーニング教材（SDGs・ESD実践編）に関するアンケート

北陸ESD推進コンソーシアム
（金沢大学附属教育実践支援センター内）

今後の活動やe-ラーニング教材等の改善に役立てていきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

1．視聴された方について
（1）職業等について
・職業人　・学生　・その他（　　）
（2）所属先（勤務先、在籍学校等）について
・幼稚園、保育園　・小学校　・中学校　・高等学校　・大学
・行政機関　・企業　・地域、NPO、NGOなどの団体等
・その他（　　）
（3）これまでSDGsやESDについて研修や授業など学ぶ機会はありましたか。
・複数回あった　・1回あった　・全くなかった
（4）新学習指導要領にはESDやSDGsの考え方が反映されていることについて、研修や授業などで学ぶ機会はありましたか。
・複数回あった　・1回あった　・全くなかった

2．視聴したe-ラーニング教材（実践編）について
（1）今回視聴したe-ラーニング教材（実践編）はSDGs、ESDを進める上で役に立ちましたか。
・大変役に立った　・役に立った　・役に立たなかった　・全く役に立たなかった
（2）具体的にどのようなところが良かったですか。また、改善すべき点もありましたら記入ください。

良かった点

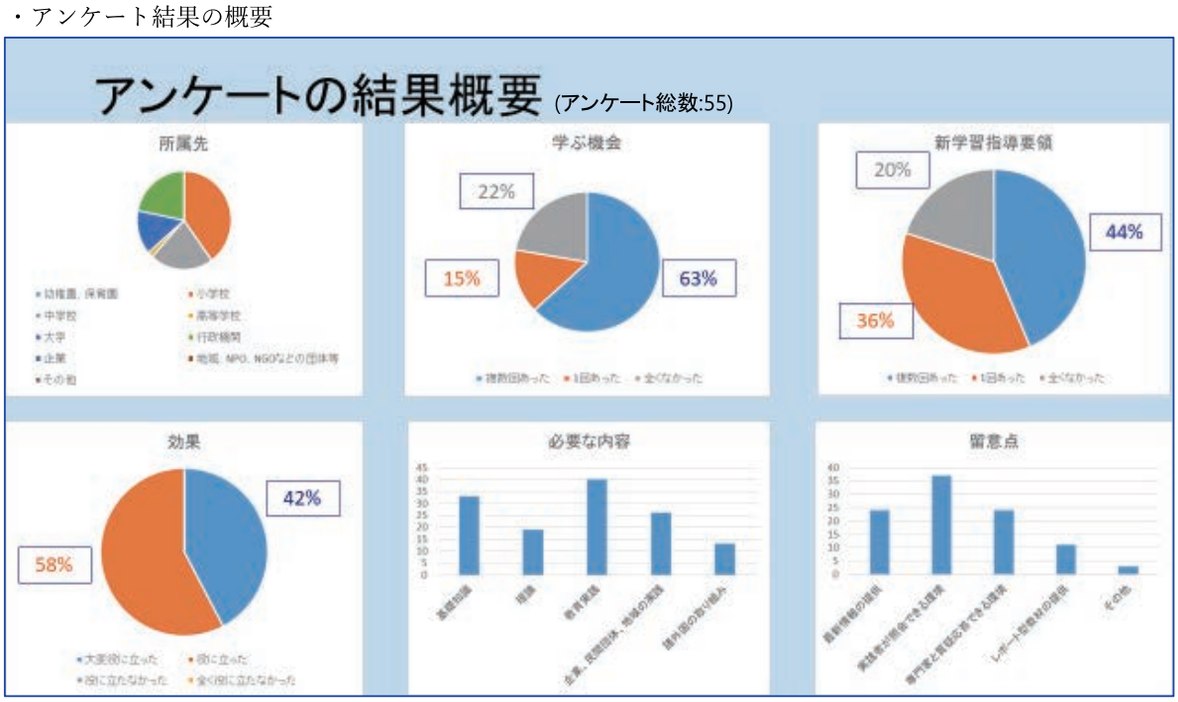
改善が必要な点

（3）今後のe-ラーニング教材の内容として、どのような内容が必要だと思われますか。
（複数選択可）
・SDGs、ESDに関する基礎知識
・SDGs、ESDの理論
・学校などで行われているSDGs、ESDに関する教育実践
・企業や民間団体、地域で行われているSDGs、ESDに関する実践
・諸外国の取り組み状況
・その他（　　）
（4）北陸ESD推進コンソーシアムでは、いつでも、どこでも、手軽に学べるe-ラーニング教材をHP上に充実することで、教員や教員志望の学生がSDGsやESDについて学びやすくしていきたいと考えています。どのようなことに留意して進めたら良いか考えをお聞かせください。（複数選択可）
・SDGs、ESDに関する最新情報を提供する。
・北陸という身近な地域でのSDGs、ESDの多様な実践を、実践者が紹介できる環境をつくる。
・SDGs、ESDの初歩的なことからe-ラーニング教材など実践に関することなどについて、専門家と質疑応答ができる環境をつくる。
・学生が学校などと現場におけるSDGs、ESDの実践を取材し報告するレポート型教材を提供する。
・その他

3．配布した「SDGs・ESD実践ガイドブック」北陸版についてお聞かせください。
（1）「SDGs・ESD実践ガイドブック」北陸版を読んだことはありますか。
・ある　・ない
（2）読んだ方は「SDGs・ESD実践ガイドブック」北陸版を読んで、SDGsやESDの理解が進みましたか。
・大変理解が進んだ　・理解が進んだ　・あまり進まなかった　・全く進まなかった
（2）読んでご意見ご感想があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

・アンケート結果の概要





北陸 ESD 推進コンソーシアム